



れんげそう

令和5年11月1日
福生第五小学校
学校通信第555号

豊かに実る

校長 泉田 巧人

暑さも和らぎ、ようやく過ごしやすい気候と
なってきました。10月中旬から校庭の金木犀
(きんもくせい)の花が咲き、甘い香りが心地
よく、とても心が和みます。

さて、秋はよく「実りの秋」といわれます。
本校でも10月16日(月)に、5年生が育てた
稲の稲刈りが行われました。成長した稲は大地
や太陽のエネルギーをたくさん蓄え、一粒一粒
立派な穂を実らせてくれました。しかし、今年



5年生 収穫した稲の稲架(はさ)掛け

の夏は、猛暑という過酷な環境が続き、稲の成長が止まり分けつが進まず、昨年から比べると穂
の出来具合があまりよくありませんでした。今年の稲栽培は、暑すぎると成長に大きな影響を与
えること、豊かに成長するには適した環境が大切なことを教えてくれました。

子どもの成長にも環境はとても大切であるといえます。「孟母三遷(もうぼさんせん)」孟子の
母親が、孟子の教育に悪い影響を与えるのを避けるため、たびたび住居を移したという逸話から、
教育には環境が大切だという教えがあります。子どもの成長に環境が与える影響はとても大きな
ものです。どんな環境においても子どもは成長するでしょう。しかし、より良い環境をつくるこ
とにより、子どもたちの学びは広がり、将来の可能性が広がっていきます。学校、家庭、地域が
担う役割を全うし、環境を整えることにより、子どもは意欲をもって学習に取り組み、もってい
る力を更に伸ばしてより豊かに成長し、自己実現を果たすことができるようになります。

「できた」「わかった」など、たくさんにより良い経験は子どもの自信となります。そして、
自己肯定感が高まり、もっとやりたいもっと学びたいという知的好奇心が生まれ挑戦につなが
っていきます。逆に、「できない」「分からない」が積み重なってしまうと、もうやりたくない、勉
強なんか大嫌いとなってしまいます。それに対して、「どうしてできないの」「ちゃんとやりな
さい」という対応は、子どもの自尊感情や自己肯定感を下げ、不適切な行動や他者に対する攻撃
的な行動につながってしまうことがあります。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」稲の穂は実が入ると重くなって垂れ下がってくる。知識、学
問、教養が身に付いてくると、おのずと人格も形成され、その人柄や行為がかえって謙虚になる
ことのたとえのように、本校の子ども全員が豊かに実ることができるよう、教職員一丸となって
環境を整えていきます。秋は穏やかな気候で過ごしやすく集中でき、様々なことを進めるには最
適の季節です。御家庭においても、子どもが学びたくなる環境をつくっていただけると幸いです。